



神の木公園

写真部活動通信



Vol. 25

冬の虫たち

みなさま、遅ればせながらあけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。冬暖冬という予報を聞き、この冬は幾分か暖かく過ごせるだろうと高を括っていたところ、最近になって例年並みの気温となり、だいぶ寒くなりました。油断は禁物のようです。体調を崩さないように過ごしたいものです。さて、今回の写真部活動通信では、冬の虫たちがどのように過ごしているか関心の集まる種類をご紹介します。春になると、いろいろな昆虫が騒がしく動き出しますが、冬は一体どこにいらっしゃるのでしょうか？

スズメバチは春になると、神の木公園でもちらほら飛んでいる様子が見られる昆虫です。夏ごろになると、大きな巣が見られたり、成熟した大きな個体が確認されたりします。秋は翌年の女王バチが誕生する大切な時期で、その女王バチのために働きバチは巣を守ろうとより攻撃的になります。冬眠に入ると働きバチは死滅してしまうため、秋のうちに新しい世代の女王たちを誕生・成長させようと必死になるわけです。そして冬になると、雄バチとの生殖を済ませた女王バチだけが生き残り、朽ちた木の中などで越冬します。春になると身ごもった卵を産み落とし、その卵はその女王バチに仕える初めての働きバチになる為、女王バチ自身が大切に育てます。なので、春先に飛んでいる個体はほぼ間違いなく女王バチなのは、スズメバチの特殊な生態に秘密があったのです。成熟した働きバチたちが揃う頃には女王バチは産卵に専念するようになります。そして巣をどんどんと大きくしていくと、夏場に見ることのあるくす玉のような巨大な巣になるということです。

人を襲う昆虫の中でも極めて危険な種類ですが、何もしていないのに突然襲いに来ることはめったにありません。人間でも同じことが言えますが、何かが突然、自分に危害を加えようとするれば、当然反撃しますよね。それは昆虫でも同じで近くを飛んでいるからと言って、手で振り払おうとするれば、スズメバチにとっても突然自分の体よりも大きな手が自分に襲い掛かってくるのですから、威嚇もしくは攻撃して追い払おうとします。人間も怖がりますが、スズメバチも怖がっているんですね。表情や言葉を使わない昆虫は物理的に態度や感情を示します。近くにいると、羽音が大きく身の危険を感じますが、一度おちついてこの知識を思い出し、じっと動かないようにしてやり過ごすか、少しずつスズメバチから遠ざかるように逃げましょう。昆虫は人間を理解できなくても、人間は昆虫を理解することができます。スズメバチの生態を知ることがスズメバチの危険を回避する最も効果的な手段であるということです。

とはいっても、公園を歩いていてそこらじゅうでブンブンされては、歩くに歩けなくなってしまいますよね。そこで神の木公園では巣を作る前の女王バチを春先に捕らえるため、蜂トラップを設置しています。構造はとっても簡単でペットボトルに誘引剤を入れて、密の出やすいクヌギの木などに設置するだけです。ただ、ほかの生物が入らないように誘引口のサイズを調整し、誘引剤の中にほかの生物は嫌がるようにお酢を既定の分量入れています。またできる限り高い位置に設置し、利用者のみなさまとの接触がないようにしています。このトラップはスズメバチの個体数を減少させることが目標であり、死滅させることは本来の生態系の調和を乱すため、バランスを取りながら行っています。スズメバチが減れば、スズメバチが捕食していた生物が増加し、その生物によって次なる被害が生じては元も子もありません。人の生活と自然とのバランスが大切なわけですね。



緑とコミュニティグループ 神の木公園
〒221-0011 神奈川県横浜市神奈川区神之木台13
TEL 045-421-7883
WEB <https://midocomi.com/kaminokipark.html>



blog



X(旧Twitter)

